

# 元会長吉田安三郎氏のご逝去をいたむ

元会長吉田安三郎氏には昭和47年4月20日  
急逝されました。  
ここに謹んで哀悼の章を表します

社団法人日本都市計学会



本会の元会長で名譽会員の吉田安三郎さんが、去る昭和47年4月20日に突然亡くなられました。謹んで哀悼の意を表します。

吉田さんは、4年間本会副会長をつとめられた後、故町田会長のあと、昭和42、43年度の2期にわたって会長に就任されました。会長としての吉田さんは、それまで多年の懸案であった本会の社団法人化に非常な努力をはらわれて、これを実現し、また賛助会員の拡充を積極的に推進して本会の財政的基礎を築かれるなど、非常に大きな功績を残された。

吉田さんと都市計画とのつながりは、昭和4年に東大卒業と同時に内務省官房都市計画課に入られてからだと思いますが、その後都市計画東京地方委員会技師、建設省指導課長、大阪府建築部長などを経て、昭和30年に新たに発足した日本住宅公団に入られてからは、計画、建築担当の理事として、日本では始めての本格的な団地造りの仕事に取り組まれました。この団地建設の開発向上に関する業績により、吉田さんを頂点とする公団技術部門は、後に日本建築学会賞をうけました。

公団をやめられた後も、八千代エンジニアリングや鹿島建設などで幅の広い活躍をされる一方、いろいろな会の仕事など多方面に精力的に活動をされておられましたが、今回不幸にもゴルフを楽しめている最中に倒れられそのまま不帰の客となられました。深く惜しまれてなりません。ここで御生前の御功績を偲び、ひとえに御冥福をお祈りする次第です。

日本都市計画学会副会長 小宮 賢一

## 略歴

生年月日	明治37年1月14日生
本籍地	大阪市天王寺区東門町33
昭和4年3月	東京帝国大学建築科 卒業
4年4月	内務省都市計画課
7年5月	警視庁保安部建築課
10年10月	神奈川県警察部建築工場監督課
15年8月	都市計画東京地方委員会
20年12月	戦災復興院計画局建築課
21年5月	同 特別建設部設備課長
22年8月	特別調達庁契約局工事部長
23年4月	建設院（後建設省）建築局指導課長
23年9月	大阪府 建築部長
30年7月	日本住宅公団 理事
38年10月	塚本不動産(株) 取締役副社長
40年1月	八千代エンジニアリング(株) 専務取締役
41年1月	鹿島建設(株) 常務取締役
46年7月	〃 常任顧問
46年7月	東亜不動産(株) 取締役
30年10月	工学博士

日本都市計画学会長より叙勲上申をし昭和47年4月20日付をもって正四位勲三等旭日中綬章を継られました。

## 学会関係

昭和31年～44年5月	理事又は監事
昭和38年5月～42年5月	副会長
昭和42年5月～44年5月	会長

吉田 安三郎（よしだ やすさぶろう）

明治37年（1904）生れ、本籍大阪市天王寺区、昭和4年東京帝國大学建築学科卒業と同時に内務省都市計画課に勤務、警視庁保安部建築課、神奈川県警察部建築工場監督課を歴任、その間、早くからドイツSiedlung文献の翻訳等都市形成に関心を深めて研鑽を積む。

昭和15年都市計画東京地方委員会に転じ、先任の吉村辰夫氏が8カ年間の哲蒙の末、東京区部西南部に空地地区の第一次指定を達成した後を引継いで、区部周辺区全域、内部区の一部、更に当時の都下都市計画区域の全域にわたって用途地域及び空地地区指定の完結に尽力された。又当時、氏が独自に「建築成団」と呼称された市街地の地区分類方法による建築態様別都市構成の解析並びに改造方向の研究に熱意を傾ける。常々、理論的に理想を指向しながら現実を見つめた実現への過程を重視した指導をされた。

戦後、20年戦災復興院、22年特別調達庁、23年建設院（後建設省）建築指導課長を歴任、戦災復興計画の基礎的指導に当たられた後、大阪府建築部長として昭和30年



楠瀬 正太郎

（都市計画総合センター顧問）

迄、郷土の復興建築全般の指導に尽力され、その傍ら工博論文「大阪市に於ける標準的建築成団とその建築態様に就いて」をまとめる。

昭和30年日本住宅公団発足とともに初代の計画担当理事に就任され、以後8カ年住宅団地、中高層団地住宅、施設付市街地住宅など、新開発、再開発の両面にわたってかねて氏が夢に描いてきた建築成団、不燃構造の本格的計画的な市街地建設の指導に全力を傾倒して、続々とその先駆けを開発、実現された当時こそ、この上ない仕事冥利を体験された期間であられたと推察、また吉田さんを頂点とするその技術集団に後に建築学会賞が送られる。

昭和38年公団退任後は塚本不動産、八千代エンジニアリング、鹿島建設、東亜不動産など幅広い活動を続けられると同時に、都市計画学会副会長、会長を勤め、同学会の社団法人化を実現し、後進の指導につとめられ、なお活躍を期待するところであったが、長年の功績に対し昭和47年正四位勲三等旭日中綬章を贈られた。同年不帰の客となられる。

# 吉田 安三郎（よしだ やすさぶろう）

## 略歴（吉田安三郎）

1904（明治37）年 大阪市に生まれる  
1929（昭和4）年 東京帝国大学工学部建築学科卒  
1929（昭和4）年 内務省大臣官房都市計画課勤務  
1940（昭和15）年 都市計画東京地方委員会技師  
1945（昭和20）年 戦災復興院  
1948（昭和23）年 建設院建築指導課長  
1955（昭和30）年 日本住宅公団初代計画担当理事  
1963（昭和38）～1966（昭和41）年度日本都市計画学会副会長  
1967（昭和42）～1968（昭和43）年度日本都市計画学会会長  
1972（昭和47）年 獲三等旭日中綬章授与  
1972（昭和47）年 逝去

明治37年（1904）生まれ、本籍大阪市天王寺区、昭和4年東京帝国大学建築学科卒業と同時に内務省都市計画課に勤務、警視庁保安部建築課、神奈川県警察部建築工場監督課を歴任、その間、早くからドイツ Siedlung 文献の翻訳等都市形成に関心を深めて研鑽を積む。

昭和15年都市計画東京地方委員会に転じ、先任の吉村辰夫氏が8ヵ年間の啓蒙の末、東京区部西南部に空地地区の第一次指定を達成した後を引き継いで、区部周辺区全域、内部区の一部、更に当時の都下都市計画区域の全域にわたる用途地域及び空地地区指定の完結に尽力された。又当時、氏が独自に「建築成団」と呼称された市街地の地区分類方法による建築態様別都市構成の解析並びに改造方向の研究に熱意を傾ける。常々、理論的に理想を指向しながら現実を見つめた実現への過程を重視した指導をされた。

戦後、20年戦災復興院、22年特別調達庁、23年建設院（後建設省）建築指導課長を歴任、戦災復興計画の基礎的指導に当たられた後、大阪府建築部長として昭和30年迄、郷土の復興建築全般の指導に尽力され、その傍ら工博論文「大阪市に於ける標準的建築成団とその建築態様に就いて」をまとめる。

昭和30年日本住宅公団発足とともに初代の計画担当理事に就任され、以後8ヵ年住宅団地、中高

都市計画総合センター顧問

楠瀬 正太郎



吉田 安三郎

層団地住宅、施設付市街地住宅など、新開発、再開発の両面にわたってかねて氏が夢に描いてきた建築成団、不燃構造の本格的計画的な市街地建設の指導に全力を傾倒して、続々とその先駆けを開発、実現された当時こそ、この上ない仕事冥利を体験された期間であられたと推察、また吉田さんを頂点とするその技術集団に後に建築学会賞が送られる。

昭和38年公団退任後は塚本不動産、八千代エンジニアリング、鹿島建設、東亜不動産など幅広い活動を続けられると同時に、都市計画学会副会長、会長を勤め、同学会の社団法人化を実現し、後進の指導につとめられ、なお活躍を期待するところであったが、昭和47年不帰の客となられ、長年の功績に対し正四位勲三等旭日中綬章が贈られた。